

奨学生生活を振り返って

I 高等学校 T・Y

高校生活の三年間、奨学金のご支援を頂き大変ありがとうございました。

私の奨学生生活を振り返ると、高校二年時の理系ゼミや吹奏楽部の部活動、外部講師を招いた講演会や大学と連携した特別講座等、奨学金のご支援のおかげで充実した高校生活を送ることができました。

理系ゼミの課題研究としては、吹奏楽部での経験から絶対音感のない人でも音を聞いた瞬間に楽譜化できると便利だと考え、流れてきた楽曲を楽譜化するアプリを開発しました。日常生活の中で「できたらいいな」を解決するために、主体性をもって仲間と協働して取り組みました。

高校の吹奏楽部の文化祭では、多様な人々と協働してステージを作り上げました。ステージの企画から実行まで生徒達で行うので、1つのステージを作り上げるために全員が団結しなければよい演奏は出来ません。パート毎の音の調整、全体の意見調整、スケジュール調整、裏方の仕事と協働性が必要とされる場面は数多くありました。また、私はステージのMC 係として曲毎に紹介のセリフを考えましたが、多くの部員がいる中で様々な意見や考えがあり衝突がありました。しかし、それぞれの考えが尊重されるよう話し合いを重ね、多様性を大切にし、文化祭本番では曲毎に各パートにスポットが当たるような紹介をしたうえでステージが盛り上がることができました。

高校生活での経験と持ち前の探求心の強さを活かし、大学では電気電子情報系の学部で最新の技術や今後生まれる技術の発明につながるような知識を習得し、人々の生活を豊かにする手助けができる人間になりたいと考えています。

私が高校生活を送る中で、貴財団から頂いた奨学金は私にとって大きな支えとなりました。これまでの3年間、その奨学金を通じて得た経験や感謝の気持ちは計り知れません。

まず初めに、奨学金による経済的な安心感により、私の学業に対する集中力を高めることができ、日々の学校での授業や活動、また、情報関係の資格の取得やプログラミング教室に通うなど自分のしたいことに没頭することができました。経済的な心配事が軽減されたことで、新たな知識を吸収し、自分をより深く理解する時間を作ることができました。

また、この奨学金を通じて、私は、社会への貢献の重要性を再認識することが出来ました。将来、私が受けた支援に感謝の気持ちを返す一環として、私も他者に対して自分の能力を活かせるような支援を提供したい。そのために大学や大学院に進学し、自分の能力を更に向上させるための学問を学びたいという強い意志が改めて芽生えました。

貴財団から頂いた奨学金は私にとってだけでなく、周りの人々や社会への貢献への道を切り開くきっかけとなりました。これからも感謝の気持ちを胸に、これまでの経験を生かし、大学に進学しても、より一層の成長と貢献を目指していきたいと思えます。

令和6年

奨学生生活を振り返って

K大学 M・S

この9か月間、小貫基金奨学生に採用いただきまして、心から感謝申し上げます。2年間の修士生活は、私の人生の中で一番充実した日々でした。

今年母が定年退職になりました。さらに、修士論文の作成が必要となっており、留学生の私にとって、経済的厳しい状況でした。奨学生を募集する時、すごく困っていましたが、今は、すでに修士論文の作成ができ、無事に提出しました。貴財団のご支援がなければ、修士論文に集中して作成するのは困難であるのでしょうか。大学院2年間を通して専門知識を身に付け、視野も広がり、私の人生にとって、大きな実りとなります。今は、日本で生活を送りながら、修士の最終試験の準備をしています。もしうまく卒業できれば、博士課程にも行きたいと思っています。在留期限が切れてまず中国に帰らなければなりません。博士の入学試験を準備して、また日本に戻ってくると思っています。

これからも支援してくださった小貫基金からのご恩を忘れずに、大学院で学んだ日本語教育の知識と経験を生かして、日本語学習者を支援したいと考えています。

尊敬なる小貫基金の皆様へ、

このたびは、2年間にわたり小貫基金特別奨学金を受けさせていただき、心から感謝の意を申し上げます。この奨学金は、私が将来の夢である日本語教員としての道を歩む一助となりました。2年間の支援を通じて、私は多くのことを学び、成長することができました。

まず最初に、奨学金をいただくことで、生活費や学習資材に対する経済的な心配が軽減され、専念して学ぶ環境を整えることができました。これにより、精力的に日本語教育に取り組むことができ、目指す姿勢をより強固なものにすることができました。

また、この2年間で得た貴重な経験の一つが、日本語教育実習への参加です。実際の授業で学び、生徒たちとの触れ合いを通じて、教育の喜びと課題を実感しました。これは私にとって非常に有意義であり、将来の教員としてのスキル向上に繋がるものでした。

進学はまだ確定しておらず、現在はその選択に向けて努力しています。小貫基金のご支援を受けながら、将来に向けての準備を怠らず、夢に向かって一步ずつ進んでいる最中です。この奨学金をいただいたことで、将来の展望が明るくなり、自信を持って進学に取り組んでいます。

最後に、小貫基金の皆様には深く感謝申し上げます。今後も貴重なサポートを頂けることを願いつつ、私は日本語教員としての夢を追い続け、社会に貢献していく覚悟です。ご支援いただきましたことに心より感謝いたします。

K大学 H・G

感想文

C商科大学 S・V

小買基金の奨学金を受給し、大学での留学生活をすることができたことに感謝しています。この奨学金がなければ、留学生としての夢を追い求めることが難しいと思っていました。

最初に、奨学金を通じて提供された経済的なサポートに感謝申し上げます。これがなければ、学業に集中することが難しく、奨学金のおかげで、充実した学生生活を送ることができ、心から感謝しています。留学生としての日本での生活は、新しい文化に触れる素晴らしい機会でした。言葉、食事、習慣など、すべてが新鮮で刺激的でした。これらの経験を通じて、柔軟性と対応力を身につけることができました。また、奨学金が提供する環境において、自分の専攻において深い理解を得ることができました。日本の先進的な教育環境と先生方のサポートにより、私の専門分野におけるスキルや知識が大きく向上しました。そして、異なるバックグラウンドを持つ留学仲間との交流は、一生の友情を築くきっかけとなりました。共に困難を乗り越え、成長し合うことができたことに心から感謝しています。

将来に向けては、留学で得た経験や知識を活かし、国際社会での貢献を目指していきたいと考えています。奨学金を通じて得た機会への感謝を胸に、社会に貢献する一員として、日本と自分の国に貢献していく覚悟です。奨学金によって実現した留学生活は、私にとってかけがえのないものとなりました。これからもその恩恵を胸に、成長し続け、留学を通じて得た豊かな経験を未来に生かしていきます。

奨学生生活感想文

C商科大学 H・N

奨学生生活を振り返ると、これは私にとって非常に価値ある経験であり、多くの学びと成長をもたらしてくれました。まず、基本情報技術者試験の合格は、私の専門知識の向上に大きな一歩でした。この資格取得を通じて、技術的なスキルだけでなく、課題へのアプローチや問題解決の能力も養われ、将来の職業生活に対する自信を得ることができました。

瑞穂祭では留学会でのベトナム料理の販売に参加しました。これは異なる文化を紹介し、交流を促進する素晴らしい機会でした。ベトナム料理の調理や販売を通じて、コミュニケーションスキルやチームワークの重要性を身に付けました。また、留学会の企画・運営に参加することで、イベントの裏側での計画と協力の大切さを理解しました。これらの経験は、実践的なスキルだけでなく、異なるバックグラウンドを持つ人々との協力やコミュニケーションにおいても非常に価値あるものでした。

卒業論文の執筆は、私の学問的な旅の集大成でした。深い研究と課題解決への取り組みを通じて、自分の専門分野における理解を深め、新たな発見をすることができました。同時に、研究の過程での困難や挑戦も克服し、学際的なアプローチの重要性を痛感しました。

奨学生としての生活は、単なる知識の習得だけでなく、実践的なスキル、国際交流、そして問題解決能力を養う素晴らしい機会でした。これらの経験は私の将来のキャリアにおいて強力な基盤を築いてくれました。

奨学生生活を振り返って

C学院大学 Y・K

7月から奨学生になり、いつの間にか半年以上の月日が経っていた。振り返ると、一番の感想はやはり、まだ半ばではあるが、自分は独立した社会人になっていたと感じた。元々私が奨学金をいただいた時にはすでに大学院2年生で、修士論文と就職活動に集中する以外の時間が余っているので、今年からアルバイトする時間を増やしていた。奨学金とアルバイトでの稼ぎのおかげで、おおよそ8月からでは、残りの学費と家賃は両親からの送金が必要なくなり、自力で対応できた。このことから始めて、自分はやっと自立で生活していたと感じた。

無論、正式に就職するまでは、完全な社会人になったとは言えない。ただ、奨学生になった間、確かに両親に頼ることはなかった。気持ち的には、自分はまだまだ好きなように暮らせる学生から、何事も自分で考慮して動く大人に転換した。

そして、いつの間にか卒業まであと2ヶ月であった。就職活動と

修士論文の最終審査、年末年始の休みが終わった直後、また忙しい生活に飛び込んでいた。もしうまくいけば、卒業の後すぐに就職ができて、正式的に社会人という身分に転換するのであろう。しかし、うまくいかない場合は、きちんと対策を取らなければならない。現在、私は留学ビザの期限が切れる前に、特定活動ビザの申請と就職活動を伴う生活の準備をしている。両親に頼らずに自分で何とかする。奨学生になって成長したこの気持ちを無駄にしたくないからである。

北原学院での学生生活では、積極的に臨床
実習と学修に取り組むことができました。こ
のような状況の中で、実習を行える環境にあ
りかたく感じながら日々学がを深めていきま
した。実習と勉強の両立は想像していたより
も大変であり、時間の余裕がなくアルバイト
をやることが非常に困難でしたが、小貫基金
奨学金を受けたことで時間的余裕ができ、毎
日の授業の予習や復習を継続して行うことが
できていました。そして良い成績を取ること、
まに維持することができました。残りわずか
な学生生活ですが、国家試験合格に向け、勉
強を一生懸命に取り組んでいきます。

将来は患者さんに信頼される歯科衛生士に
なりたいと思っています。優れた技術や知識
を持っていても、患者さんに寄り添う姿勢を
持っていかれば信頼は得ることができない
し不安や心配を取り除くことはできないと考
えています。自分の目標とする歯科衛生士を
目指して、これから頑張りたいと思

います。

この度は、小買基金特別給付奨学金を受け
させていたのに大変感謝しています。
ありがとうございました。

奨学生生活を振り返って

M大学 R・W

約3年にわたり、多大なるご支援をいただきまして本当にありがとうございました。

この4年間、小貫基金特別給付奨学生の名に恥じぬよう、及ばずながら学業に学校生活にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみると、至らない部分もございますが、自分なりに有意義な実り多い学生生活を過ごすことの出来た4年間でした。

その中でも自身の成長を特に感じる事が出来たのは臨床実習の場でした。その実習に必要な器材なども貴行の奨学金から充てさせていただきました。実習着に袖を通す事で自らが医療人であるという自覚を持つことができ、少しでも吸収できることがあればとメモ帳を片手に現場を駆け回り、できるだけ多くの症例を見学させてもらうなど常日頃欠かさず努力を重ねて参りました。臨床実習も終盤を迎えた頃には診療補助の質の向上や専門用語を使用した会話の理解が容易になるなど技術面と知識面どちらの面でも自身が成長したことを実感することが出来ました。また、この4年間を通して自身の将来の方向性を明確にすることが出来ました。こうして無事に学業に専念することができたのも貴行のご支援のお陰です。経済不況が言われる中、学生生活を変わらず支えて下さった貴行の皆様、そして給付業務に携わって下さった全ての皆様に、重ねて心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業後、新たな人生の一步を踏み出しますが、こうして私を支えて下さった皆様へのご恩と感謝を忘れず、小貫奨学金を受けた者として恥ずかしくないよう、より一層精進して参りたいと思います。

奨学生生活を振り返って

M大学 K・K

このたびは小貫基金の奨学生を採用していただき、ありがとうございます。

私が高校時代に通っている歯科医院の歯科衛生士さんはとても熱心的で、処置もプロでした。その魅力をきっかけで歯科衛生士になる道を選びました。大学で専門的な知識と技術を学びたいと思いました。しかし、父親が働いている会社は新型コロナウイルス禍の影響を受けて経営困難となり、家庭は経済的に困窮し、私は学費を捻出するためにアルバイトに勤しむことが多くなりました。そのため勉強の時間も減り、一旦休学するつもりでした。奨学金のご支援のおかげで、学習時間を増やすことができ、大学を続けることができました。

一、二年生の時は専門科目と選択科目を学び、三年生から臨床実習に入り、患者と接することができました。臨床実習の現場に教科書の知識を活用して、人生にとっても有益な経験でした。現在四年生になり、特殊形態の歯ブラシとプラーク除去率の関連について実験をして、卒業研究を行いました。その研究結果に基づいて卒業論文を完成しました。研究の厳密性と客観性を深く理解し、大変充実した学生生活を過ごしました。来年の3月に迫る歯科衛生士国家試験にあたり、たくさんの科目を復習し、合格に向かって頑張りたいと思います。そしてこれからグローバル化が進む社会の中で、自分が中国語と日本語両方できる歯科衛生士として社会や企業に貢献して参ります。

最後になりましたが、ご支援してくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。皆様からのご厚意を忘れず卒業までの4カ月、全力で勉学に勤しみます。

奨学生生活を振返って

M大学 Y・K

この度は約1年半の間、小貫基金特別給付奨学金を支給していただき、誠にありがとうございました。小貫基金のご支援のおかげで、勉学に専念することができ、充実した学生生活を送ることができました。

私が大学1年生の頃に、新型コロナウイルスが流行し、対面授業からオンライン授業になりました。対面授業とは違い、オンライン授業では十分な理解を得ることが難しく、特に基礎科目に苦手意識を持ち続けていましたが、奨学金で参考書を購入し、自分の不足している知識を補うための勉強ができました。

また、大学3年生になると4年生前期までの1年半、臨床臨地実習があり、登院のための費用が必要になり、大学4年生になると歯科衛生士国家試験に向けた参考書や模擬試験のための費用が必要となりました。私は父子家庭であり、家族の負担を減らすためにもアルバイトも検討しましたが、新型コロナウイルスの影響や臨床臨地実習もあり、学業との両立が難しく、思うようにアルバイトをすることができませんでした。しかし、特別給付奨学金を支給頂き、金銭面での負担も軽くすることができました。

現在は卒業研究も終わり、残すところは卒業試験と歯科衛生士国家試験となりました。授業や参考書で培ってきた知識を確実なものとして、合格できるよう日々努力を続けていきたいです。

最後になりましたが、ご支援くださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。

『奨学生生活を振り返って』

M大学 Y・O

大学入学当初はコロナ禍ということもあり、バイトもできず、日本学生支援機構の貸与奨学金と両親からの仕送りで生活していました。大学進学と同時に地元から離れ一人暮らしをすることを後押ししてくれた両親には感謝の気持ちと金銭面で負担をかけてしまっているという申し訳なさを感じつつ、生活していました。貴財団の奨学生のお話をいただいた際に、両親への負担を少しでも軽くしたいという思いで応募し、特別給付奨学生としての採用が決まった時は、自分の今までの勉学に対する努力が報われた気がして非常に嬉しかったことを覚えています。その後の奨学生生活では、両親への金銭面での申し訳なさが軽減したことに加え、節約のために我慢することも減り、以前と比較して大学生活を楽しめるようになりました。そして、現在も貴財団の奨学生としての自覚を常に念頭に置き、卒業試験、歯科衛生士国家試験に向けて日々勉学に励んでいます。

臨床実習を通じて周術期等口腔機能管理に興味を持ったため、将来的には病院で働きたいと考えています。その目標を達成するため、大学卒業後はまず一般の歯科診療所で働き、歯科衛生士業務全般や患者様とのコミュニケーションの取り方などをしっかり学びたいと考えています。大学を卒業し、歯科衛生士になってからも、貴財団の奨学生だったという事実を恥じないよう常に歯科衛生士として成長していく努力を忘れず、多くの患者様の健口に携わっていきたいです。

奨学生生活を振り返って

M大学 K・F

この度は、小貫奨学生に選んでいただきありがとうございました。

私は奨学生生活で大きく分けて2つの事に奨学金を使わせていただきました。1つ目は海外留学です。夏休み期間にハワイへ海外留学に行きました。ハワイで働く日本の歯科衛生士から話を聞く機会があり、日本と違う考え方や内容など知ることができ、普段見たり感じたりすることができないような貴重な経験をすることができました。ハワイは現在物価が高く、食費などの出費を不安に思っていたのですが、奨学金を利用することができたおかげで不安がなくなりました。

2つ目は交通費です。私は大学へ通うため地方から来てひとり暮らしをしています。就職活動は地元に戻りたい気持ちがあり、歯医者への医院見学のため何度か帰省しました。その際、何度か帰省するならお金がかかってしまうのでバスで帰ろうと考えたこともありましたが、時間的余裕もなく、少しでも時間を無駄にしたくなかったので、新幹線で帰省しました。テストや国家試験の勉強に追われている自分にとっては大変助かりました。

奨学生生活で時間を無駄にすることなく、貴重な時間も過ごすことができたのは、小貫奨学金があったからです。ありがとうございました。

「奨学生生活を振り返って」

M大学 V・H

小貫基金奨学金を受けるチャンスを頂きまして、誠にありがとうございました。奨学金のおかげで様々なことができました。

まず、就職活動を無事に終了したことです。4年生になると、活動を行う時になります。しかし生活費を支払うためにアルバイトをせざるを得ない現状でした。奨学金のおかげで、シフトを減らし、自己分析から自分の将来にはどの業界・職種を選ぶといいかまで就職活動に集中することができました。その結果、早い段階で3社から内定を頂きました。科学メーカーの会社、飲食チェーン運営の会社、外国人技能実習生受入事業の協同組合といった別々の業界の会社でした。日本のいい商品をベトナムにはじめ、拡大していきたいため、化学メーカーという会社で海外営業部門を選択しました。これから環境を考慮しながら社会課題を解決する日本の技術をもっと多くの国へ届くように架け橋になって頑張りたいと思います。

次に、ボランティア活動やアクティブな体験などを参加したことです。



10月21日に【SAP ジャパン(株)主催として開催した「河川ごみクリーンアップ活動」に参加しました。SAPグループ社員とその家族、留学生支援協会の留学生とOBOGの方々と共に東京都墨田区荒川河川敷辺で積極的に行いました。参加して性別・年齢・国籍に関わらず、環境を守る意識がみんな同じだと感じ、日常生活から気にしながら生活環境を守りたいと思いました。

また、11月17日に「本所防災館体験」という活動に参加しました。本所防災館で防災体験「防災シアター、応急手当、煙、地震、消火」をしました。自身と周りの人を守るためにどうしたらいいのかという体験は特に火事があった経験のない私にとって非常に大切な知識でした。

それ以外には、「JR東日本東京新幹線運輸区・東京新幹線車両センター見学」、「首都圏外郭放水路見学」、「国立劇場歌舞伎鑑賞教室」、「横手市ツアー」「卒論発表会」など様々な体験・活動に参加しました。

小貫基金奨学生として採用していただいたおかげで、以上のことができました。今後、小貫基金奨学生として仕事と社会活動ともに積極的に行い、社会に貢献する恩返しをしたいと思います。改めまして一般財団法人 小貫基金を心から感謝いたします。

以上

M大学 K・D

感想文 「奨学生生活を振り返って」

大学院生になってもう2年が経ちました。この2年は、努力と挑戦の連続でした。去年の夏から作文や面接を通して、奨学生としての合格通知をいただき、とても嬉しく同時に緊張もしました。この経験は私にとって非常に重要であり、自己成長のための貴重な時間でした。日々の生活の中で、新聞や本を読むことに力を入れ、社会への理解を深める努力をしました。また、就職するまでに自分が関心を持っているテーマである「教育産業におけるサーバントリーダーシップ」についても研究を進め、アウトプット能力を向上させました。さらに、1年間で日本語を学ぶコミュニティ「JP-talk」を設立し、現在は約9000人のメンバーが登録しています。この成果は私にとって非常に嬉しいものです。また、自分のビジネスも順調に成長し、ベトナム留学生や日本に住むベトナム人コミュニティのために日々頑張っています。

2023年は感謝に満ちた一年でした。まず、生活と学習を支えてくださった小貫基金留学生奨学金に心から感謝いたします。奨学金をいただいたことで、時間的な余裕が生まれ、研究と就職活動を順調に進めることができました。また、学内外でさまざまな活動に参加することで、多くの経験を積むことができ、充実した一年を過ごすことができました。去年は自己成長を遂げることができた一年でした。2023年度は大変忙しい一年でしたが、非常に充実した日々を過ごすことができました。学習面では、修士論文を除いて、大学院の履修コースの全単位を取得しました。また、インターンの同期との人間関係を広げる良い機会にも恵まれました。これからは学校に就職して、社会に貢献したいと心から思っています。心から感謝しています。

M大学 V・N

小費基金の奨学金採用にた、たおかげで
アルバイトの時間を減らすことができた資
格取得の勉強集中することが出来ました。
卒業まであと4月となりました。卒業後はバト
に帰国して、日本語を教える学校に就
職が決まっています。日本でN₁の資格をとて
母国のたくさんの人に日本語を教えるため
アルバイトをする時間を勉強にま、こたの
奨学金継続を希望します。
令和4年7月29日からは、幸運にも奨学金を
採用にたおかげで、私にとって、これは物質
的な励まし①源であるた、でなく、日本で
の生活の困難を克服するのに役立つ大き
な精神的な慰めでもあります。いつもお世話
にたっており、本当にありがとうございます。

楽学生生活を振り返って

市立C高等学校

A・M

私は市立C高校に入学した当初から、早稲田大学に合格することを目標にして、日々勉強に励んでまいりました。あともう少しで卒業という今、振り返ってみると、私が毎日勉強に打ち込む事ができたのは、両親のおかげだと思えます。母はいつも私の健康を第一に考え、毎日栄養バランスを考えてごはんやお弁当を用意してくれたり、体を冷やさないようにして、勉強中がラケットをかけたくれたりして気づかずにしてくれます。父は勉強の事や将来の仕事のことなど、私がどんなことをしたいのか話を聞き、アドバイスをくれたり、世の中のことを教えてくれたりしています。そんな父が余命数ヶ月と母から教えられたのは、去年の春のことでした。私はとてもショックでこれまで感じたことがない程、死について悲しい気持ちになりました。しかし、悲しんでいる時間があるのならその時間を少

しども勉強に当てるべきだと思ひ、毎日勉強
をしていきます。
私は将来社会に貢献できるような人間に成
長できるように、一層努力していきたくと思つ
ています。今までに支援していただき、あり
がとうございました。

奨学金生活を振り返って

H高等学校 K・H

高校生活の間、ずっと私を支援してくださ
 った小貫財団の方々には感謝の気持ちでいっ
 ぱいです。金銭的なご支援のおかげで安心し
 て活動できたことはもちろんですが、それだ
 けではなく、自分は誰かに支えていただいで
 いるのだというところがとても励みになりました
 た。また、その期待に沿いたいという思いが
 日々のモチベーションになりました。

部活動だけでなく学業でも、奨学生として
 の自覚を持ち、入学当初から目標として掲げ
 ていた文武両道を貫き通そうと頑張ることが
 できました。得意科目では、更なる点数向上
 やクラスの昇格に努め、苦手科目でも諦める
 ことなく取り組み、向上心を持つことを意識
 して勉強することが出来たと思います。

初めて奨学金のお話をいただいた当初は、
 私程度の競技レベルの選手がこのような支援
 をしていただいてよいのだろうか戸惑いを

感じることもありました。しかし、ご支援い
 ただくうちに、なんとしてでもこの高校3年
 間の活動を通して小貫財団様に恩返しをした
 と思うようになり、努力し続けることがで
 きました。
 高校2年のころは部活動での結果が思うよ
 うに出ず、ブランクに陥ってしまいうこともあ
 りました。そんなときも、決して目標を見失
 わずに走り続けてこられたのは小貫財団様の
 期待に応えたという思いがあったからです。
 その結果、高校3年時には自分の専門種目で
 目標だったインターハイに出場することがで
 きました。その一方で、まだまだ自分には改
 善すべき課題が沢山残っていることも事実で
 す。大学ではそれらの課題を克服し、更に飛
 躍していけるよう頑張ります。
 最後に、3年間もの間、支援をしていただ
 き本当にありがとうございます。財団の方
 々に奨学生として選んでいただいたことを自
 信にしてこれからも努力していきます。

奨学生生活を振返、て

K専門学校C M・S

この度は、令和四年度小貫基金特別給付奨
学金奨学生に採用、ご支援頂きありがとうございます

七月に内定式を行い、約半年が経ちました。

四月からの前期期間では臨床実習と学校、職

場との往復の毎日ごと二が心の余裕もなく、

金銭的不安や焦り、毎日をこなすような日々

でした。しかし、途中からは奨学生として今

やるべきこと。ご支援もあり、勉強へと集中

することができました。おかげで前期の学校

の成績ではクラス一位を取ることもできてまし

た。

後期に入り臨床実習も終了し国家試験に向

く一気に環境がまた変化しました。より一層

勉強へのモチベーションが高まります。歯科

衛生士になりお口の健康から全身の健康へ寄

与したい。医療人として今後生きていく。こ

の目標の為に国家試験に合格しなければ

りません。合格できるかな。大丈夫かな。今
までなら不安でいい、ほいにな、ていたでし
う。しかし、今は不思議と心配や不安はあり
ません。今まで培った知識や及んでくた
さる皆様がいえるからいい。必ず二十三日
衛生士国家試験に合格し目標への第一歩を掴
み取ります。

奨	学	生	生	活	を	振	り	返	っ	て																									
M大学										R : A																									
奨	学	生	生	活	を	振	り	返	っ	て	奨	学	金	の	お	か	げ	で																	
経	済	的	な	心	配	が	減	り	、	学	業	に	専	念	す	る	事	が	で																
き	ま	し	た	。	歯	科	衛	生	士	の	学	び	は	充	実	し	て	お	り																
将	来	の	キ	ャ	リ	ア	に	向	け	て	着	実	な	ス	キ	ル	を	身	に																
つ	け	ら	れ	ま	し	た	。	奨	学	金	の	支	援	を	受	け	な	が	ら																
歯	科	衛	生	士	の	学	生	と	し	て	過	ご	し	た	日	々	は	、	充																
実	感	と	成	長	が	交	錯	す	る	素	晴	ら	し	い	経	験	で	し	た																
奨	学	金	の	お	か	げ	で	経	済	な	心	配	を	軽	減	し	、	専	念																
で	き	た	こ	と	が	何	よ	り	も	嬉	し	か	っ	た	で	す	。																		
学	業	に	集	中	す	る	こ	と	が	で	き	た	お	か	げ	で	、	歯	科																
衛	生	士	に	必	要	な	知	識	や	技	術	を	深	め	る	こ	と	が	で																
き	ま	し	た	。	奨	学	金	が	な	け	れ	ば	、	こ	れ	ほ	ど	集	中																
的	に	学	ぶ	こ	と	は	難	し	か	っ	た	で	し	よ	う	。																			
ま	た	、	奨	学	金	を	通	じ	て	感	じ	た	の	は	、	社	会	か																	
ら	の	サ	ポ	ー	ト	の	あ	り	が	た	さ	で	す	。	支	援	の	手	が																
差	し	伸	べ	ら	れ	る	こ	と	で	、	自	分	の	夢	や	目	標	に	向																
か	っ	て	進	む	姿	勢	が	一	層	強	化	さ	れ	ま	し	た	。	将	来																
は	、	こ	の	恩	恵	に	感	謝	し	、	同	じ	夢	を	抱	く	若	い	世																

考 へ て い ま す 。

20 × 20

2

奨学生生活を振り返って

県立K高校

A・T

この度は奨学金の寄付をありがとうございました。

私は小学生の頃から教師になることが将来の夢で、中学生の頃に小学生の頃に通っていた習い事の影響で英語教師にしたいと思つていきました。私は将来、大学は英語を専門にした大学に行きたいと考えていました。しかし、一昨年度に他界し、母子家庭となり父親の支援が足りず生活を送ることになりました。ですが、大学に行つて英語も学びたいという思いは変わりませんでした。

そんな折、奨学生として採用していただき、奨学金のお陰で塾に通うことができています。今は貯蓄準備がすぐそこまで近づいていて、あと数か月ほど第一志望校合格に向けて頑張りたいと思っています。

この水からも支援ください。ご支援への感謝も忘れず、将来の夢を叶えるために一層勉強

奨学生生活を振り返って

K専門学校 M R・Y

この度は、一般財団法人小貫基金特別給付生に採用していただき、誠にありがとうございます。

小貫奨学金は経済面、精神面へのサポートだけでなく、学業面で今まで努力してきたことを認めていただけたと思い、私にとってとても大きな励みとなりました。

また、いただきました奨学金に関しては生活費だけでなく、外部の講座への参加費用や学費納付など、私の将来に向けての投資に充てさせていただきました。

御財団や学校の友人、先生方など沢山の方々に支えられ公私ともに充実した学校生活を送ることができ、素敵な一年となりました。

今回支援していただけた事を無駄にしないよう、来年の国家試験合格に向けて日々、精進していきたいと思います。

今 後 も 皆 様 か ら の ご 恩 を 忘 れ ず に 専 門 学 校
を 卒 業 し た 後 も 、 支 援 を 受 け た 者 と し て の 相
応 し い 態 度 で 一 生 懸 命 学 び 、 患 者 様 に 寄 り 添
い 、 社 会 に 貢 献 す る こ と の で き る 歯 科 衛 生 士
に な り ま す 。
最 後 に ご 支 援 し て く だ さ い ま し た 、 全 て の
方 々 に 御 礼 申 し 上 げ ま す 。
あ り が と う ご ざ い ま し た 。

奨学生生活をありがたえて

県立H高校

M・S

私は今回貴財団の奨学金を給付していただき、
将来の夢がある看護師になるという夢
を実現する為の第一歩を踏み出すことが出来
ました。

私は将来看護師として働きたいと考えてい
ます。そのために初めは4年制の大学に通う
ことを考えていました。しかし、それは学費

を考えた時に、私の経済環境ではとても現実
的ではなく、専門学校に通うのが危うい状況
でした。また、毎回学校選ばれる際に設備
が良いか、学費がやすい環境か、国家試験の合
格率が高いかなど、自分が目指す看護師に
なるため自分に合った学校を選びたいと意識
するべきかのです。私は経済環境が厳しい
ためまず第一に考えたいのは学費が安く、
払える額であるかどうかがでした。しかし、こ
のような状況の中で奨学金を給付していただき

けたことにより、学校選択をする際に学費の
 ことを第一に考えず、自分にこの学校は合
 っているのか、無理なく続けられるかがど
 も視野に入れながら学校を選択すること
 が必要だと考えました。また、学費が払
 えないため、看護師になるという夢も諦
 めなければならぬ。病気を克服し、社会
 復帰を目指す人々や、日々治療している
 人のサポートが出来る看護師になること
 を目指すこと、夢に向かっ

て歩み続けることが出来るという事は、
 本当に嬉しく思っています。
 このよう
 な形で貴財団から奨学金を
 提供していただき、夢に向か
 って頑張る機会をまた得る
 ことが出来たことには、ま
 ざまと喜びを感じています。
 有り難うございました。

(1)

現在、志望校合格へ向けて毎日十二時間以上勉強をしています。徐々に模試の判定も上がってきていてラストスパートをかけています。

私は、国公立大学を目指していますが、現役での大学進学を考えると私立大学の併願も配慮しないといけない状況です。大学受験をするにあたって受験料や交通費、宿泊費を調べてみると、多額の費用がかかることが分かりました。私の家は母子家庭のため受験に多額の費用を使うことは難しい状況ですが、小貫基金様からの奨学金を頂けたことで安心して受験することができそうです。受験まであと一か月となった今、小貫基金様の奨学金に応募して良かったと改めて思っています。

自分と同じような境遇の人がまだまだたくさんいて、経済的に大学進学を諦めてしまう人も多くいると思います。そういう人たちには、小貫基金様のような奨学金があると諦めず、夢や希望を持って勉学に励むことができ

(2)

ると思ひます。これからも、小負基金様の奨
学金が多くの夢や希望を支援されることを
心から願ひていきます。

2